

「クラブライフが心とからだ暮らしを変える」

「元気なやま」をつくるためスポーツクラブによる生き生きとした暮らしを提案します。
日本におけるスポーツの大切さを伝え、サポートしていきます。



NPO法人富山スポーツコミュニケーションズ

巻頭インタビュー Interview

熱きサポーターの声援に応え、07年アジアチャンピオンズリーグを制覇したJリーグの浦和レッズ。人気、実力を兼ね備えたビッグクラブの地位を確かなものにし、スポーツビジネスと地域活性化の成功例として注目を集めている。藤口光紀社長にクラブ経営の要点やスポーツを通じた社会貢献の可能性を聞いた。



浦和レッドダイヤモンズ
代表取締役社長 藤口光紀

スポーツで街に笑顔を

浦和レッズは、Jリーグが理想とする地域密着を表現しています。Jリーグは、スポーツをどう変えたのでしょうか？

Jリーグが93年に始まって以来、社会におけるスポーツの位置付けが変わった。20年ほど前にあった「たかがスポーツ」という風潮をもう感じない。Jリーグの発足は、単なるプロ化ではない。スポーツが地域とともにある姿を示したことが重要だ。それまで、国内スポーツの舞台は大都市が中心だった。Jクラブが地方都市に発足し、ほかのスポーツにも影響を与えた。

地域の特長を生かすことが、経済をはじめ各分野で求められている。これは原点回帰の動きだと思う。スポーツは地域に根ざし、市民生活の一部になりつつある。あるべき姿だと思うし、浦和はそれを目指してずっとやってきた。

■昨年がリーグ1試合平均4万6667人の観客を集め、営業収入は約80億円。ここまで成功できた理由はどこにあったのですか？

Jリーグ発足当時から「地域に愛されるクラブ」を目指し、ホームタウンを大事にしてきた。地道な取り組みを変わらず続けてきた成果が現れていると考えている。

Jリーグ初年度には、ブームに乗って多くのクラブが東京・国立競技場で試合をし、観客数を伸ばそうとした。わたしたちは、「浦和に家を建てる」ことが先決と判断し、収容1万人の地元・駒場競技場にこだわって試合を開催した。どうやったら浦和レッズが本当に良くなるのか、それだけを考えて行動した結果だった。

これまでの成果は、クラブだけで成し遂げたものではない。地元メディアをはじめ、みんなが「おれたちのチーム」と思って応援してくれた。住民がクラブを日常的な存在として認めてくれたおかげだ。

■アジアで頂点に立ち、クラブW杯で3位になった。次の目標をどこに定めているのですか？

「いつになったらバルセロナやマンUのようになれるのか」と聞かれるが、欧州とは経営環境が違う点は認識していただきたい。収入400-500億円に達する欧州のビッグクラブは、巨額な放映権料で支えられている。浦和は営業収入79.6億円のうち、入場料収入が



MITSUNORI FUJIGUCHI

1949年生まれ。慶応大学から三菱重工入社。サッカー日本リーグ、日本代表で活躍した。浦和レッズ運営部長、Jリーグ理事などを経て、06年6月より現職。

30億円で38%を占めている。まずは、「アジアに浦和がある」と欧州から認められるクラブになりたい。欧州

サッカーのあり方も変わる可能性があるだろう。ビジネス優先でチケット価格が高騰し、地元住民がスタジアムで観戦できない状況は健全ではない。

欧州、米国のスポーツビジネスの良い部分を取り入れながら、日本が中心となってアジアサッカーの活性化を図っていけばよいと思う。そのためには、韓国のKリーグ、中国のCリーグも元気にしなければ。アジアは人口が多く、潜在能力がある。数十年後、アジアが世界で地位を築いた時に、浦和レッズはリーディングクラブでありたい。

■現在、取り組んでいる課題は？

07-09年度の中期ビジョンとして「AAA(トリプルA)プラン」を定めた。世界に向けた基盤強化を目指し、アジア・ナンバーワン(強く魅力あるチーム)▽エリア・オンリーワン(地域の誇りとなるクラブ)▽アカウンタビリティ・ファースト(自立し責任あるクラブ)を目標に掲げている。Jリーグはまだ16年目。浦和レッズも人たたとえるならユース年代の多感で大変な時だ。急成長したからこそ、基礎体力をつけねばならない。財務基盤の強化やスタッフの労働環境充実など組織内部の強化にも力を入れている。

勝つのが当たり前になり、1勝の重みがなくなってきているのは、と危惧する時がある。苦楽をともにしてきたこれまでと同様に、目標に向かって地域の皆さんと積み上げていく作業を続けたい。今は、もがいている時期だと思う。

■「地域密着」を超えた「地域融合」を目指していると聞きます。中期ビジョンにある「エリア・オンリーワン」への取り組みを聞かせてください。

ウラへつづく……………▶



浦和レッズ 1992年、三菱浦和フットボールクラブとして発足。96年、浦和レッドダイヤモンズに改称。99年にJ2降格、翌年にJ1復帰決める。埼玉スタジアムは01年完成。03年、ナビスコ杯優勝。06年、Jリーグ初制覇。07年にアジアチャンピオンズリーグ優勝。07年度の主催試合入場者数は108万6668人、営業収入は79億6400万円、ともに5年間で2倍以上に伸ばしている。



藤口社長(左)と会談する佐伯理事長(右)

世界を相手に戦うようになって、ホームタウンが基盤であることは変わらない。ハートや哲学は不変だ。ユニフォームを着て意気揚々とスタジアムに来てくれるサポーター、クラブの携帯ストラップを下げて街を歩く人たちを見て、クラブが日常生活に入り込んでいると感じる。これからも、地域との関係を確かめながら進めていく。

社員にはいつも「我々の存在価値は何か」と問い掛けている。「地域が豊かになる。

みんなが幸せになる」のが目標であり、収入が増えればさまざまな形で地域へ還元する。当然のことであり、「地域還元」という言葉はおこがましく感じる。

浦和レッズは、小学生年代のチームを持っていない。スクール開催や指導者への情報提供で、各地区で活動するチームをサポートしている。埼玉大学と提携し、講師派遣なども行っている。学生のスポーツビジネスへの興味が高まっており、研究テーマに選んでく

れる人もいる。ソフト面に限らず、大学のスポーツ施設の活用にも協力できないか、とも考えている。埼玉県は広いので、スポーツで人が集える場所がエリアごとにあればよい。

スタジアム周辺の自治会との話し合いもしている。住民の皆さんの気持ちを尊重しながら、一緒に“サッカー場下町”をつくりたい。

■**スポーツを通じて、どんな街をつくりたいですか？**

みんなが笑顔で、「こんにちは」とあいさつを交わし、子供たちが安心して外で遊べる。そんな、元気でコミュニケーション豊かな街にしたい。自分が住みたい街をどうつくるのか、まちづくりにクラブが一役買いたい。

■**全国で数多くのクラブがJリーグを目指しています。この状況をどうみていますか？**

JFLや各地域リーグが活性化することは日本サッカーにとって重要だが、チームを強化してJリーグに上がることばかりがクローズアップされているように感じる。目標は、地域



から愛されるチームになることに置くべき。「スポーツはいいね」「地元は大事なな」と多くの人に伝えられるクラブになってほしい。お金がないなら、さらけ出して支えてもらうしかない。クラブも苦勞した分だけ、強くなれる。

■**スポーツチームのスポンサー集めは容易ではありません。どんな戦略が必要でしょうか？**

お金をもらってメリットを提供する相手が「スポンサー」ならば、スポーツビジネスではスポンサーという概念を捨てて企業と交渉する必要があるだろう。浦和レッズの営業の基本は「クラブの活動の趣旨に賛同してもらい、お金を出してもらう」。どちらかが上に立つ、してあげるじゃなくて、ともに作り上げる仲間を募ってほしい。

■**「カターレ富山」がJリーグ昇格をかけて戦っています。アドバイスをお願いします。**

地域の皆さんが、それぞれの立場でさまざまな活動をし、その中心にクラブがあるかたちが理想。まちづくりの視点を持ち、愛されるクラブを目指してほしい。



TSC 2007 財務諸表

2007 年度特定非営利活動に係る事業会計収支計算書

自 平成 19 年 4 月 1 日 至 平成 20 年度 3 月 31 日 (単位:円)

経常収支の部		正味財産増減の部	
[経 常 収 入]	4,066,679	[正味財産増加の部]	
[事 業 費]	3,197,773	当期収支差額	△8,392
[管 理 費]	877,298	正味財産増加の部 計	0
経常収支差額	△8,392	[正味財産減少の部]	
<その他の資金収支の部>		正味財産減少の部 計	8,392
[その他資金収支差額]	0	当期正味財産増加額	△8,392
当期収支差額	△8,392	前期繰越正味財産額	566,973
前期繰越収支差額	536,973	当期正味財産合計	558,581
次期繰越収支差額	528,581		

2007 年度特定非営利活動に係る事業会計貸借対照表

平成 20 年 3 月 31 日 現在 (単位:円)

資産の部		負債の部	
科 目	金 額	科 目	金 額
[流動資産]		[流動負債]	
(現金・預金)		前 受 金	141,000
普通預金	650,581	流動負債計	141,000
現金・預金計	650,581	負債の部合計	141,000
(売上債権)		正味財産の部	
未 収 金	49,000	[正味財産] 正 味 財 産	558,581
売上債権計	49,000	(うち当期正味財産増加額)	△8,392
流動資産合計	699,581	正 味 財 産 計	558,581
資産の部合計	699,581	正味財産の部合計	558,581
		負債・正味財産の部合計	699,581

TSC コース紹介

楽しむ気持ち育てたい！
サッカースクール

U12 スクールと大学生コーチ
(冬期は山田総合体育館)

NPO 富山スポーツコミュニケーションズは、サッカースクールやパワーヨガ教室、スポーツ観戦サポート事業などを展開しています。今回は、サッカースクールについて紹介します。

本クラブサッカースクールは、1996年に北陸初のU-18（18歳以下）クラブとして発足した「立山ベアーズ U-18」にルーツを發します。2001年に「FC 富山 U-18」と改組し、05年からNPO 富山スポーツコミュニケーションズとして活動しています。

現在はU-18、U-15、U-12の各カテゴリーを開設し、週1-2回、富山県総合運動公園屋内グラウンドを中心に約20人が活動しています。当法人理事長の佐伯仁史（公認B級コーチ）以下、大学生を中心としたコーチングスタッフが指導にあたっています。クラブならではの多世代交流、複数の若手指導者による選手へのきめ細やかな目配り、プレーヤー目線での助言などが特長です。

「サッカーを楽しむ」ことを第1の目標にしています。みなさんも一緒にプレーしませんか。また、ゴールキーパーレッスン、フットサルや30歳以上の教室、スポーツの魅力を探る語り合いや資料研究・ゲーム観戦が出来る茶話会「スポーツを知ろう」などのコースも用意しております。

見学や体験参加も行っておりますのでお問い合わせください。

電話：
090
5176-0075

E-mail：
hi104fc@
mbm.nifty.com



イベントで楽しむU18スクール

19年度公認 C級コーチに3人合格

TSCの指導者、会員の3人が、19年度日本サッカー協会公認C級コーチに合格しました。養成講習会の様子や感想をレポートしていただきました。

またTSCでは、コーチの資質向上のため、毎月コーチミーティングを行っています。

声の大切さ実感

奥田俊典（富山市、学生）

サッカーの現状（世界と日本、富山県のレベル）やコーチング方法、救急法など最先端の情報を学び、サッカーが日々進化していることを実感しました。この知識と経験を今後の指導に生かしたいと思えます。

なかでも、コーチングの声の質や大きさの大切さを痛感できたことは収穫でした。これまでは、ポイントが押さえられておらず、選手を誉める時もトーンが単調で伝わりにくかったと思います。練習を選手にとって楽しいものにするために、自分を変えていかねばならないと考えました。どのような言葉が分かりやすいのか考え、声にも抑揚をつけるよう日ごろから努力しています。

コーチとして、学び続けることに終わりはありません。子どもたちや、他の指導者の声を聞き、常にオープンマインドの姿勢を忘れず、情熱を持ち続けたいと思えます。

サッカーを楽しむためには、チームの仲間と声を掛け合い、コミュニケーションをとることが大事だと考えています。そしてサッカーを通じ、スクール生が、自分で考えて行動でき、いろんな人の支えを感じて感謝できる人に育ってほしいと思います。わたしは、子供たちの将来にも触れているという責任感を持ち、見本となるような行動をし、一緒にプレーして同じ目線に立ったりしながら、成長を支援できたらよいと考えています。いつか、選手が卒業後に再びクラブに戻ってきて、一緒にサッカーに携われたらいいなと思っています。



TSC月例コーチミーティング特別講義の様子

肌で感じた悔しさ、喜び

山下吉彦（富山市、会社員）

18歳の高校生から50歳以上と幅広い年齢層の29人が受講し、講義や実技など計50時間のカリキュラムに取り組みました。講義の時間は、学校で勉強をした子供のころを思い出して、楽しく感じました。実技は、さすがに若い人たちにはかなわず、時間とともに足よりも口が動いていました。TSCの練習の時と同じです(笑)。でも、楽しくサッカーができ、多くの仲間もできました。とても爽やかな講習でした。

受講して特に感じたのは、現状の自分の指導力と理想とのギャップでした。練習内容の決定や子供との接し方など、上手くできると思っていたことが、実はできていないことが分かり、悔しさ、はげゆさを感じました。だからこそ、うまくいった時にはうれしく、人に褒めてもらえる、認めてもらえる喜びの大きさも改めて実感しました。指導を受けている子供たちの気持ちを体験できたように思えます。

学んだことを生かし、サッカーが大好きな子供たちに対し、一人ひとりの良いところをどんどん伸ばせるよう、楽しくサッカーを伝えていこうと思います。



学ぶことをやめない

大西慎太郎（富山市、学生）

今回の講習会で本当に多くの刺激を受けました。今までよりもサッカーに対する理解が深まり、指導者としての在り方、子供たちとの向き合い方など改めて考えさせられました。特に子供たちとサッカーを通して関わっていくうえで、自分自身が学ぶことをやめてはならないと強く感じました。

また、他の指導者との交流を深めることができ、貴重な経験になりました。U-12、U-15、U-18など、いろいろなカテゴリーの指導者と意見を交わすことで新しい視点を得ることができましたし、自分自身の指導者としての方向性を確認することができました。

このような貴重な体験をさせて頂き本当に感謝しています。これからは自分が今回の講習会で得たものを子供たちに還元できるように努力していこうと思います。

Report

ブラジル留学レポート

Report

U-18 スクール生の藤堂晃成君（富山市）が昨年の夏、ブラジルにサッカー留学しました。約1カ月、サンパウロ市近くなどでプロクラブの下部組織の練習に参加しながら、さまざまな異文化に触れました。レポートを紹介します。



ブラジル留学写真
「藤堂君は左から2人目」

コミュニケーションの楽しさ知る

藤堂晃成（富山市）U-18 スクール

ブラジル留学で印象に残ったこと。それは文化の違いや、プレーの違いもありますが、一番大きかったのは、人と人とのコミュニケーションについてでした。

出発する時には、現地の人たちとコミュニケーションがちゃんととれるのか、と不安も感じていました。しかし、初日から積極的に話し掛けてきてくれ、日本では考えられないくらい早くなじむことができました。サッカーをしてきて、これほどまでにコミュニケーションすることが面白いと思ったのは初めてでした。そして、サッカーを続けていく上で、とても重要なことだと気づきました。

ブラジルの選手は、本当に楽しそうにサッカーをします。良いプレーをした時には褒め、悪いプレーにはしつこくくらいに文句を言います。それだけ本気でプレーしているのも伝わってきました。

1年たった今も、ブラジルでの経験が生きていると感じます。いろんな面で意識が変わりました。考えを行動にうつす素早さに影響を受け、「なんでもやってみよう」と思うようになりました。サッカーでも、現地で教わったフェイントが最近できるようになって驚きました。貴重な体験を糧に、これからも新たなチャレンジをしていきたいと思っています。

INFORMATION

- ◆TSCホームページリニューアル 7月10日より運用開始
- ◆BCリーグ富山サンダーバーズ観戦ナビゲーション
4月27日、6月21日、7月13日=アルペンスタジアムで実施
- ◆JFLカターレ富山観戦ナビゲーション
5月25日、6月15日、7月21日=県総合運動公園陸上競技場で実施
- ◆福祉施設招待事業
富山県共同募金会のご支援により、ルンビニ園の児童生徒たち54名をBCリーグ富山サンダーバーズ戦に招待。
- ◆「スポーツ観戦お出かけ支援募金」スタート!
富山スポーツコミュニケーションズ(TSC)と富山県共同募金会は、県内スポーツクラブ界の協力を得て、募金によって県内の福祉施設の方々と交通手段も含めて招待する「スポーツ観戦お出かけ支援募金」を7月13日、富山サンダーバーズホームゲームよりスタートしました。
- ◆Jリーグ観戦ツアー 右記に記載
- ◆TSC定期総会 5月24日 県民会館
- ◆TSC定例理事会
4月19日、5月24日、6月30日、7月22日(第1-4回)

開設コース案内

スポーツを知ろう!

*サッカーをはじめスポーツとは何か?勉強会を開いて豊富な知識を学んでいます。
JFLは観戦無料!Jリーグ観戦ツアーなどのスポーツ観戦も割引になります。

パワーヨガ教室好評募集中!

*癒しながら健康的にボディコントロールできます。



Jリーグ観戦ツアー募集中!

*10/26(日) 新潟vs浦和(東北電力ビックスワン)
*11/29(土) G大阪vs浦和(万博記念競技場)



参加申込：氏名・電話番号・参加希望コースを添えて直接TSCへお申込ください。
携帯090-5176-0075 TEL/FAX 439-9277




NPO法人富山スポーツコミュニケーションズ

事務局
〒930-0818 富山市奥田町 12-41-203
Tel.Fax.076-439-9277
E-mail (pc) hi104fc@mbm.nifty.com
URL <http://www.toyama-sc.net>

Vol.5 発行日：2008年8月1日
【発行日】 年3回
【発行】 NPO法人富山スポーツコミュニケーションズ
【発行人】 佐伯仁史
【編集人】 赤壁逸朗
クラブライフが心とからだ暮らしを変える